

ガンコ親父の

台風で散らかった庭のあと片付けをしてると、裏のばあさんが声を掛けてきた。去年から庭で自家栽培している「ゴーヤー」をあげるようになったとたん、向こうからの親密度が一方向的に増した。「うちちゃんのお嫁さん、本当にいいお嫁さんねえ。美人だし、私にもちゃんと挨拶してくれるし。ほんと、よく出来た女性ね」

松次郎は近所にも評判の花菜が自慢だった。「お孫さんが楽しみね。男の子だと母親に似るっていうから、可愛いじゃろうね」とばあさんは言った。しかし、そのように強調されすぎると、学に似ると可愛くないように聞かせる。そういえばこの二十数年間、ばあさんは一回だって学を褒めたことがない。親としては、奄美黒糖焼酎がら、男でも女でも、健康な孫だったら、どっちでもいい」とばあさんに言った。

土曜日の晩の食卓に花菜がいない。学に訊くと、なにやら災害復旧の民間ボランティアに出かけていると言う。学はアジの塩焼きをつつきながら、ボンボンと応えた。「はい、おとうさんと明快で受け答えの良い花菜とは大違いだ。」

やっぱ、裏のばあさんの思っていることは正しいのかもしれない。みんなのためにボランティア活動で帰宅していない花菜と、はやばやと晩酌をやっている学。八月末には「民謡甲子園」とよばれる若手による全国大会があり、喜界島の女性がグランプリを受賞した。大好きな島唄を唄い伝えるために、本土の幼稚園の先生を辞めて島に戻ったそう。九月で幕を閉じた「あまみシマ博」もけっこう女性が頑張ったというし、もはや「男の出る幕」はほとんどいなくなってきたのではないだろうか。島の若い男達にも「草食系」の影がチラリ。だらしのない男が増えた松次郎の目には映った。

突然、松次郎の頭の中に「許せない怒り」が積乱雲のように広がった。「マ、マナブー、おっ、お前な」とアジの塩焼きを裏返している学に声を荒げた。「どうして、花菜ちゃんのように元氣な返事できないんだ！二人の結婚後、食卓にはじめての怒りが響いた。「判っているのか？」と問われた学は、よく判らないまま「はい、はい」と応えた。「はいは一回でいい！お前のいい加減さはどうにかならんのか」と松次郎は唾み付いた。

久しぶりに大声を浴びた学もムツとして「いい加減はないだろ？」と歯向かった。親父の方がいい加減だと、飲み過ぎて結婚式の最後を自分勝手にふるまった親父を批判した。「あの後、おふくろが上手に立ち回ってくれたから治まったのに、まあ、憶えちゃいないだろっけ」と「何っつー！」

「まあまあ、ふたりとも」と貴代が止めに入ったところ、玄関が開いて花菜が帰ってきた。「おかあさんもこれで一緒に飲まない？」

今日は土曜日だし」と言っ、手に持ったマンガーを差し出した。花菜は「フルーツと良く合うのよね、しまっちゅ伝蔵は」と言っ、にっこり微笑んだ。

その瞬間、一家の食卓にたれ込めていた険悪な雰囲気は消し飛んだ。女性パワ―、いや、花菜の笑顔パワ―は凄い。啞然としていた二人の前で、貴代と花菜はグラスを力チンと合わせた。



くろちゅ
伝蔵
でん
どう

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊饒な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」酒粕燗の味を全国に押し出す昔ながらのコクのある味と香りです。



25度
好評発売中

喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2986番地12
096967(65)02551

2009年10月新発売は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、掲載されました。喜界島酒造は、この活動に応援しています。

the most beautiful villages in japan
喜界町
WING

女性。パワ―に乾杯！